

プロクロラズ剤に対する感受性が低下した イネばか苗病菌を確認しました

福島県農業総合センター生産環境部作物保護科

1 部門名

水稻-水稻-病虫害防除

2 担当者名

前原瞳、山田真孝

3 要旨

県内でイネばか苗病に対するプロクロラズ剤（商品名：スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE）の防除効果の低下が疑われる事例があり、県内で採取したイネばか苗病菌を遺伝子診断した結果、プロクロラズ剤耐性菌と診断される菌が確認された。この耐性菌に対して、モミガードC・DF およびテクリードCフロアブルが有効であることを確認した。

(1) 耐性菌と診断された菌に対して、スポルタック乳剤では防除効果が低下していたが、モミガードC・DF およびテクリードCフロアブルでは高い防除効果が認められた（図1）。

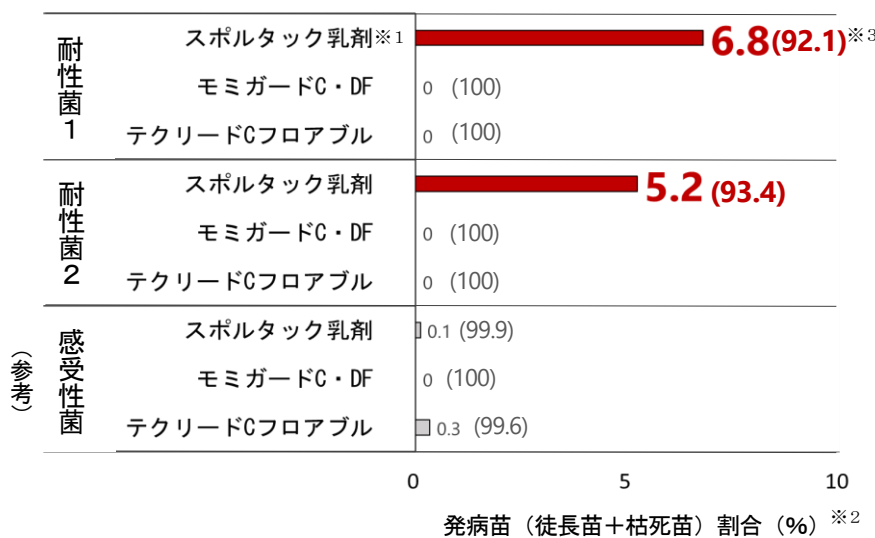


図1 県内で分離されたイネばか苗病菌に対する主要な種子消毒薬剤の効果

※1 有効成分 スポルタック乳剤:プロクロラズ、モミガードC・DF:銅・フルジオキシニル・ペフラゾエート、テクリードCフロアブル:イプコナゾール・銅

※2 未消毒区発病苗割合 耐性菌1:85.9%、耐性菌2:79.2%、感受性菌:85.2%

※3 〇内は防除価=(未消毒区発病苗割合-各消毒区発病苗割合)/未消毒区発病苗割合×100 95未満で薬剤の効果が低いと判定される

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 新奇病虫害・難防除病虫害防除技術の確立

5 主な参考文献・資料

(1) イネばか苗病菌のプロクロラズ剤に対する感受性低下と有効薬剤 茨城県農業総合センター農業研究所 R1 主要成果